

平成 29 年第 7 回沖縄県教育委員会会議（定例会）議事録

1 開会及び閉会に関する事項

平成 29 年 5 月 18 日 午後 3 時 00 分開会
午後 4 時 08 分閉会

2 出席者及び欠席委員の氏名

(1) 出席者

教育長 平敷 昭人 委員 照屋 尚子 委員 喜友名 朝春
委員 新崎 速 委員 玉城 きみ子 委員 松本 廣嗣

(2) 欠席委員

なし

3 説明のため会議に出席した職員の職氏名

教育管理統括監	宜野座 葵	教育指導統括監	與那嶺 善道
参事	石川 聡	参事	親泊 信一郎
総務課長	識名 敦	教育支援課長	登川 安政
施設課長	佐次田 薫	学校人事課長	古堅 圭一
県立学校教育課長	半嶺 満	義務教育課長	當間 正和
保健体育課長	平良 朝治	生涯学習振興課生涯学習推進監	前田 直昭
文化財課長	萩尾 俊章		

4 議事関係

(1) 開会

平敷教育長が開会を宣告した。

(2) 議事日程の決定

議事日程は、会議資料記載の日程案のとおりとすることが決定された。

(3) 平成 29 年第 5 回議事録の承認

全出席委員異議なく、平成 29 年第 5 回議事録を承認した。

(4) 平成 29 年第 6 回議事録の承認

全出席委員異議なく、平成 29 年第 6 回議事録を承認した。

(5) 議事録署名人の指名

平敷教育長が、喜友名委員を議事録署名人に指名した。

(6) 報告事項

報告事項1 平成28年度県外進学大学生奨学金事業の実施状況報告

【説明（教育支援課長）】

資料に基づき、平成28年度県外進学大学生奨学金事業の実施状況報告を行った。

【質疑等】

- 新崎委員 行政の事業として、他都道府県に先駆けて給付型奨学金の制度が創設できたということは本当に画期的なことだと思います。今年度の給付人数は25名ということですが、行政が制度を作って、支援に乗り出した意義は極めて大きいと思っております。これから続く生徒や保護者の励みにもなりますし、子どもを育てることは社会の責任だという県民の意識の醸成にも繋がるものと期待しております。ただ、奨学金を必要とする生徒はまだまだ大勢おります。先程、100名余りの応募があったということですので、予算の関係があるとは思いますが、できるだけ多くの生徒が受けられるように、行政機関だけではなく、民間にも広く支援の輪を広げて、更に拡充ができればと思っております。
- 玉城委員 給付型奨学金のリーフレットを大変関心を持って見させていただきました。これは高校生が対象となっておりますが、高校受験を目指す中学生、小学校高学年の子供達にも夢と希望を与える意味から、活用してもらいたいと思います。できましたら、キャリア教育の一環として、市町村教育委員会、市町村立小中学校に対しても活用していただけたらと思います。
- 教育支援課長 ご意見を参考にさせていただきたいと思っております。
- 松本委員 素晴らしい事業だとは思いますが、25名の枠に沢山の希望者が押し寄せています。奨学生の選択の過程に疑義を持たれることが無いように、対策や予防的措置は取っているのでしょうか。
- 教育支援課長 この事業は昨年度から実施した事業です。この審査基準、評価の点数については外部委員で構成する専門委員会を設け、そこに審議してもらい、評価関係の点数をつけてもらっています。最終選考となる10月28日の三次選考でも外部委員も含めた選考委員会に諮りまして、この順位関係をしっかりと、名前や学校名を伏せた形で点数化して上位25名を定めています。学力基準の点数化、家計基準の点数化、全て数値化した形で行っています。応募があった方々等から疑義がないような形で今後も引き続き実施していきたいと考えております。
- 照屋委員 今回給付が決まった25名には充実した学生生活を送って、沢山学んでいただきたいと期待をしておりますが、奨学金の給付を受けた学生の活用について、今後の計画がありましたら教えてください。

- 教育支援課長 奨学生の条件の一つとして、入学後、例えば帰省した場合において、県内の高校で、自分の体験談を生徒達の前で発表してもらうことがあります。今後、学生らの活動状況を見て、各高校とも連携しながら、後輩達に、どのように勉強し、この事業を活用し、大学でこういった勉強をし、将来はどのようにになりたいという話をしてもらうような仕組みを継続的に実施していく予定でございます。
- 照屋委員 玉城委員もおっしゃっていましたが、小中学校でも、先を見通せるような、希望を持てるような支援ができればと思いますので、この事業の学生を活用できればと思います。
- 喜友名委員 県外進学大学生奨学金事業が順調にスタートしたということで、大変喜ばしいことだと考えております。国の方でも経済的理由で進学を断念せざるを得ない者の進学を後押しするという大変素晴らしい考え方で給付型奨学金制度がスタートするというので、非常にいい流れになっていると思っております。子ども達が夢を持って進学に挑戦していく、こういう機会が増えてきたことは、素晴らしいことであり、評価したいと思います。ところで全国的にも所得格差が進学格差を生んでいるということが言われておりますが、2016年3月に朝日新聞が報道した自治体の学習支援事業実施状況についてのNPOが実施した調査によると、回答した479自治体のうち、32.2%の自治体が生活困窮者世帯向けの無料学習塾などの学習支援事業を実施しているということでした。以後も増えてきていると思っておりますので、多くの自治体を実施しているという状況にあります。本県でも多くの自治体で実施されていますが、子ども達が意識の中に進学を強く位置づけること、あるいは地域で学習に取組み学力をつけ、成績を上げ、進学の夢を達成する。それができるよう支援していく必要があると思っておりますし、重要なことだと私自身認識しております。引き続き、国及び県の給付型奨学金制度の拡充に最大の力を入れていただきたいと思っております。
- 教育支援課長 我々の情報では、長野県及び鹿児島県が先駆的に給付型奨学金制度を実施しておりますが、県レベルでこれだけの規模の事業を行っている事例も本当は少ないと思っております。そういった中で沖縄県はこの事業を実施し、また民間企業・団体等も給付型奨学金を実施している状況です。また、非常に心強いのは、国が先進国としてやっと腰を上げて大規模な支援事業を行い始めたことです。喜友名委員がおっしゃったように、学びたい希望を持つ生徒達を後押しする制度ができつつあります。ここをしっかりと広報しながら、また何ができるかということを検討しながら児童・生徒の支援について、今後とも取り組んで参りたいと思っております。
- 玉城委員 給付を受けた奨学生の活躍や頑張りが、後輩達の大きな励みになると思っております。県が、画期的な、夢のある、子ども達の可能性を育むための取組みをしておりますので、可能でしたら、この子達が将来どういう職業につき、グローバル人材としてどのように活躍していくのか、これを追跡して後輩達に紹介していくことを進めていただきたいと思っております。

○教育支援課長 その点につきましても、この事業の実施要領では、卒業後どこに行つて、どういった所で、自分は活躍しているという報告も貰えるようにしています。大切な税金を使つての事業ですので、この生徒・学生達が国内外でどういったところで活躍しているかどうか、非常に頑張っている方々を広報し、小中学生にもしっかりと知ってもらい、先輩方は頑張っているなと思ってもらえるような取組みをしていきたいと思ひます。

○教育長 採用枠は 25 名なのですが、4 学年分で毎年 100 名に給付していく規模になっていきます。毎年の予算の確保が課題ではございますが、一度始めた事業ですので、この規模を縮小することがないように頑張つてまいりたいと思ひます。

(7) 非公開の決定

議案第 1 号及び第 2 号は人事案件であることから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 14 条第 7 項の規定により非公開とすることが、全出席委員の同意により決定された。

(8) 議案審議

議案第 1 号 学校職員の人事について（非公開）

議案第 2 号 学校職員の人事について（非公開）

(9) その他

特になし

(10) 閉会

平敷教育長が閉会を宣言した。